



上木甚兵衛
(高山町の商人、伊豆 新島へ流刑)

飛騨の義民

～ 人道のため為政者に抗議し一身をささげた人々～

主催：一般財団法人下呂ふるさと文化財団

共催：下呂郷土史研究会

講師：林 格男(ただお) 先生(高山市)

「義民とは」

江戸時代は巨大な権力による圧政に対して立ち向かった百姓一揆や騒動が頻発した時代でもあった。幕府はきびしい刑罰を科して農民を制圧しようとしたが、彼らの果敢な抵抗を止めることはできなかった。義民とは村落の代表として年貢の重圧による生活の困窮を領主、幕府に直訴した者、また百姓一揆の指導者として一身をささげた者たちのことである。

「飛騨の義民」

飛騨では全国的にも大きな「大原騒動」や「梅村騒動」等がおこった。大原騒動は明和騒動、安永騒動、天明騒動の3回の騒動の総称で1771年から18年間にも渡る大規模な百姓一揆である。

(大原騒動では一万人近い処刑者を出している。)

検地増石に反対し、弱冠 18 歳(にして一揆のリーダーとなった本郷村善九郎(現高山市上宝町本郷、獄門)が妻かよ(宛てた遺言状(県重要文化財)が高山陣屋にあり、涙なしでは語れない書状である。

また、上木甚兵衛(現高山市荘川町出身)は、伊豆の新島へ流刑となり、島の子供たちに読み書きを教えたり、お寺に仏具を寄付したりし、その人柄から島の人々から「飛騨んじい」と慕われ敬愛された。近年でも新島と荘川町との交流が続いている。下呂市にもこの騒動に関係して湯屋村、長三郎(現小坂町湯屋、流刑)、広瀬屋清七郎(現萩原町古関出身、処刑)、小瀬増衛門(下呂乗政、割腹自殺)等が名を連ねている。

11/11 (日) 13:00 開場 13:30 開講

会場：下呂交流会館 マルチスタジオ

入場無料 (どなたでも入場いただけます)

■講師 林 格男(はやし ただお) 先生のプロフィール

昭和6年(1931)高山市に生まれる。

斐太教員養成所修了。38年間にわたり、飛騨地区の小中学校に勤務。退職後、文学に親しむかたわら、郷土史の研究に専念。著書に「土座物語」「まさ女昔語り」「義民甚兵衛と孝子勘左衛門」、「大原騒動記余聞」。共著に「凶説大原騒動」、「丹生川村史」、「宮村史」、「久々野町史」、「国府町史」、など多数ある。現在、飛騨歴史民俗学会員、古文同好会同人、文苑ひだ同人、ほか。

問合せ：一般財団法人下呂ふるさと文化財団 0576-25-5000(下呂交流会館内)
下呂郷土史研究会(松波) 0576-25-2004